

リサイクル活動

キャンパス
ライフで
リサイクル
& リユース!

【環境リサイクル市】

学生有志からの発案で、卒業生のごみ搬出減、新入生への低価格の物品提供を目的とし3月の合格発表日に行っています。収益金は、温暖化対策として、構内の壁面緑化支援に使用します。



【エコ・キャンパスライドシステム】

これは、自転車のリユースのことです。放置自転車あるいは、卒業時の学生に回収を呼びかけて集められた自転車を選別修理し、貸し出します。その結果放置自転車は2006年度318台、2007年度182台、2008年度71台と減少しました。



地域・社会貢献活動

日本有数の
カキツバタ
巨大群落!

【カキツバタ群落保全のための多様性調査と遺伝子解析】

愛教大の近隣にある小堤西池は、カキツバタ *Iris laevigata* が群生していることで有名です。全国で有数の巨大群落ということもあり、1938年に国の特別天然記念物として指定されています。



近年、カキツバタの花の数が少なくなる、花のサイズが小さくなる等の現象が顕著に見られるようになり、カキツバタの生育環境の現状を科学的に把握するために、現地調査等に加え、アロザイム酵素多型分析、DNA解析などの分子データを用いた遺伝的多様性の調査を行いました。

その結果、種子からは13酵素25遺伝子座が得られ、パッチ状になっている6つの群落は、区域によって遺伝的多様性が異なることが示唆されました。さらに、クローン構造も明らかになり、種子による集団の拡大を促す方法により、一般に安定状態といわれる生物多様性が大きくなる可能性が示されました。群落の保全計画と最良の保全方法について、管理者である刈谷市に提言したいと考えています。

【地域の文化の尊重及び保護等】

多くの教職員が、地域の文化の尊重や環境保護の活動に貢献しました。例えば、刈谷市の商店街活性化の取り組みに協力して、美術を学ぶ1年生31人が、年末・年始に刈谷駅前アクアモールに制作設置したメルヘンの世界を春夏秋冬であらわしたイルミネーションは、子どもや女性にも親しまれるような作品に仕上げられ、たいへん好評でした。

環境重視型エコキャンパスを 創造しよう!



愛知教育大学長 松田 正久

愛知教育大学憲章の精神に則り、本学の豊かな自然を生かし、人にやさしいキャンパス環境作りを進め、環境と安全に配慮した持続可能な未来社会実現のための教育研究に努めてきました。国立大学法人としての第二期中期計画では、附属学校園を含むキャンパス整備6ヶ年計画を定めて、環境重視型エコキャンパスを創造し、快適な教育・研究環境づくりを進めます。

● 環境管理組織



国立大学法人 愛知教育大学
Aichi University of Education
環境報告書 2009 ダイジェスト

国立大学法人 愛知教育大学 〒448-8542 愛知県刈谷市井ヶ谷町広沢1 http://www.aichi-edu.ac.jp
保健環境センター・財務部施設課 TEL 0566-26-2194(保健環境センター) 0566-26-2152(施設課)
E-mail:kankyo-h@auecc.aichi-edu.ac.jp

デザイン協力: 愛知教育大学 美術教育講座 工芸研究室



ユニバーサルデザインフォントとはUD(年齢・性別や障害に関係なく、あらゆる人が商品・サービス・住居・施設を快適に利用できるように配慮されたデザイン)の視点にもとづいてデザインされた書体です。



この印刷物は、古紙/リユース紙を含む再生紙を使用しています

● 通常的生活ごみ ●



分別カードを
持ち歩こう!

財布等に入れて、いつでも確認
できるようにしておきましょう。

愛教大は 省エネ
日本一!

全国にある教職員数500人以上の
国立大学法人60法人中、愛知教育大学は、
2006～07年度の床面積及び一人当たりの
エネルギー使用量が最小であると
みとめられました。

国立大学法人 愛知教育大学
環境報告書 2009
ダイジェスト

「環境重視型エコキャンパスの創造」 を宣言！

3 つの環境目標

1. 全学を挙げての環境重視型大学を実現するための体制整備
2. 教育大学としての特徴を生かした環境に関する教育研究の推進
3. 豊かな自然環境を保全活用した環境負荷の少ないキャンパスづくり

環境教育と研究

環境分野の
研究も
充実！

【環境調和型プロセスの確立】

有機合成化学の分野では、これまで盛んに使用されてきた遷移金属触媒に代わり、反応後の後処理が容易な脱金属触媒(有機触媒)を用いた有機合成化学反応の開発が緊急課題とされています。赤倉研究室では、実験有機合成化学の研究者との共同プロジェクトを進めており、高精度の理論化学計算を駆使して、合成反応開発の効率化および開発後の反応検証を行っています。

【環境教育の基礎を考える ～水・土・光・大気・動植物を感じる～】

生活科は、子どもの身近な人、社会、自然を学習対象として、それらと繰り返しかわりながら、自分にとっての価値を考えていく教科で、「環境による学習」とも言われています。野田研究室では、低学年の教科である生活科学習を通して、環境教育の基礎を考えています。

「5色がそろうと体にいいわ！」



【食育と環境】

私たちが食事をする際には「いつ・どこで・誰と・何を・どれだけ・どのようにして」食べるのかを考える必要があります。食生活の大切さを子どもたちに伝えることを使命とし、食事バランスガイドのコマに因み、愛知教育大学で誕生した「食まるファイブ」が様々な学校に出向き、毎日頑張っています。

環境活動に
参加し快適な
キャンパス
ライフへ！

環境 コミュニケーション

【全学会議】

年に一度教職員・学生が集まり学内の諸問題について話し合う「全学会議」を開催しています。これは本学の最も民主的な取り組みの一つで、一人の学生の意見であれ尊重し取り上げる事の出来る他大学にない仕組みです。多数の方の参加をお待ちします。



【環境ミーティング】

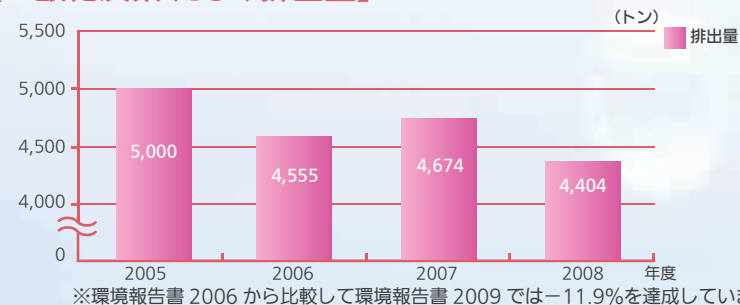
本学の環境問題及び環境への取組について、学生と広く意見交換を行う場が、環境ミーティングです。毎年数回開催し、大学の環境目標・計画や環境報告書の作り方及び学生主体の環境活動などについて意見交換を行います。



環境への配慮

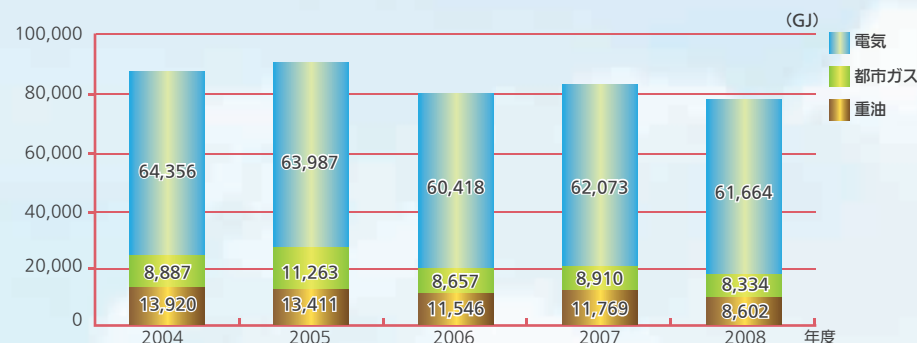
環境重視の
エコキャン
パスへ！

【二酸化炭素(CO₂)排出量】



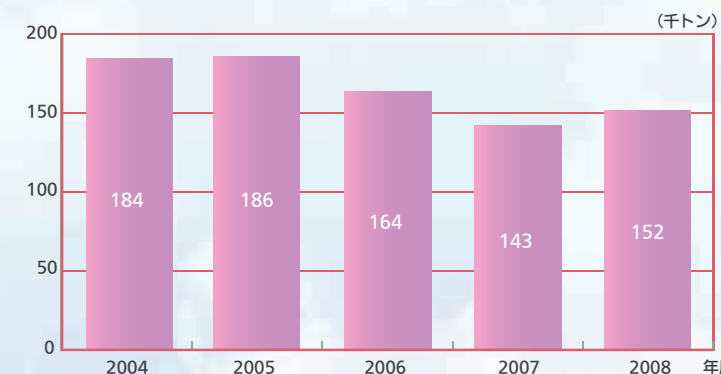
【総エネルギー投入量】

本学の総エネルギー投入量(GJ)は、2007年度には気候の影響により、2006年度より増加しましたが、2008年度は、2006年度よりも減少し、過去最も少ないレベルに抑えることができました。省エネに対する認識と、省エネ対策による効果が表れたものと思われる。



【水資源使用量】

本学の水使用量は、トイレ等の節水対策工事や節水啓発活動で年々減る傾向にあります。しかし、2008年度はプール使用量の増加やグラウンドの漏水などの影響で、増加に転じました。漏水は発見後復旧しました。さらなる節水対策として、井戸水や雨水の利用についても検討したいと考えています。



【壁面緑化】

環境リサイクル市で得られた収入を、宿根性アサガオ等の苗や支持用のロープなどの購入費用にあて、壁面緑化の取り組みを進めています。また、日頃から環境美化活動に取り組んでいるラグビー部員のみなさんが、苗の植え付けに協力しました。



【キャンパスクリーンデー】

学生と教職員の学内美化に対する意識を高め、教育・研究の場にふさわしいキャンパスにするため「キャンパスクリーンデー」を実施しています。



【クリーン作戦】

生協学生委員会は、毎月学内の清掃活動を行っています。主な内容は、第一共通棟教室の机の中の清掃と共通棟の周囲やバス停周辺のごみ拾いです。学生や、学生委員のOB、教職員の方にも手伝ってもらっていますが、もっと多くの方に賛同願えるように活動できればと思います。皆の力で大学をきれいにしたいと願っています。皆さん、ご協力よろしくお願いします。



分別カードを
持ち歩こう！

財布等に入れて、いつでも確認できるようにしておきましょう。

●教育研究活動から出る廃棄物●

種類ごとに分別して専用集積所に運ぶ



●古紙(新聞・OAペーパー等)



●実験系廃棄物、薬品類、薬品汚染物、実験廃液、原材料系廃棄物、粗大ごみ(ガラス・プラスチック器具・試験容器・金属くず等)